

報告第 1 1 号

株式会社淡路島パルシェの令和 6 年度決算書類の提出の件

株式会社淡路島パルシェの令和 6 年度決算書類について、地方自治法（昭和 2 2 年法律第 6 7 号）第 2 4 3 条の 3 第 2 項の規定により、別紙のとおり提出する。

令和 7 年 9 月 1 日提出

淡路市長 戸 田 敦 大

令和6年度事業報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

【総論】

今年度の来館者総数は 178,828 名（前年度比 99.1%）、内訳は香りの館 84,898 名（98.4%）香りの湯 93,930 名（99.7%）、純売上高は 176,588,600 円（税別・前年度比 102.4%）であった。来館バス台数については、448 台（前年度 493 台前年比 90.9%）、部門毎の純売上高は、物販事業前年度比 101.5%、栽培事業 86.5%、ファーストフード事業 96.4%、加工体験事業 112.5%、温泉事業 102.8%、宿泊事業 86.4%であった。

近年お客様の動向には大きな変化が見えており、節約志向は非常に高い反面、興味のある物、ご自身にメリットの大きなものに対しては贅沢もするというような、メリハリが強くなっている。それに加え、我社の近辺の西海岸を中心に新設のレストラン、観光施設並びに宿泊施設が多く出来て、お客様の選択肢が増えており、淡路島への来島者は多いが、色々な施設に分散しているように見える。このような状況の中で、お客様にパルシェを選んでいただける強みを持つ必要があり、私達パルシェの原点であり、他社に負けない強みでもある「香り」というテーマを活かした施設づくりを強化し、他の観光施設との差別化を図るよう取り組んでいる。

令和7年度に開催される 2025 大阪関西万博、ひょうごフィールドパビリオン、AWA J I 島博に向け、兵庫県線香協同組合と共に「香りに愛された島・淡路島香る」をテーマに、香りの町の情報発信に取り組んでおり、香りのテーマパークパルシェの認知度アップへの絶好のチャンスと考えている。

直面している課題である働き手不足とコスト高に加え。夏場の気温の上昇による、体調不良、作業量の低下、冷房の使用頻度増による電気コスト等、暑さ対策も大きな課題である。

人手不足については、新規採用がままならず管理職による残業、休日出勤で欠員の穴埋めをしているが管理職の退職者も出ており、この体制はいつまでも続くものではなく疲弊感も漂っているうえ、売上機会の損失にも繋がっており深刻な問題となっている。

コスト高については重油、電気をはじめ、備品消耗品、原材料、最低賃金の引上げ等経費の殆どが高騰しており、令和6年10月に温泉料金を値上げした。宿泊料金、手作り体験、カフェメニューなどは令和5年度に値上げしているが、更なる値上げを検討する必要がある。レジでの支払い時のキャッシュレス化が進み、決済会社への手数料負担が膨らんでいる点も今後の懸念事項である。

施設の老朽化も大きな問題であり、修繕だけではなく、お客様の満足度を高めるリニューアルを含めた、大規模な施設改修について市との協議が必要な時期に来ていると考えている。

【各部門の事業内容】

1. 物販事業

売上は 43,401,323 円（税別・前年度比 101.5%）であった。来館バス台数はコロナ前の令和元年度の約三分の一ではあるが 448 台の来館があった。コロナ禍、隣近所にお土産を買って帰るという状況ではなく、調味料、芳香剤をはじめ、ご自身で消費される物が良く売れる傾向が見られたが、この傾向は現在も続いており今後も更に強まると考えていることから、品揃えの見直しを進めている。具体的には芳香剤、入浴剤、石けん、枕等の商品を増やし、癒し、睡眠といった心安らぐ香り関連の売り場に変えている。特に線香関連商品の売上は大きく落ち込む事無く根強い需要があり、今後の品揃えの参考材料である。

2. 和食処「かおり」事業（香りの湯での飲食の提供）

料理人の退職に伴い令和 5 年 1 月から休業しており、売上は発生していない。一昨年度（令和 4 年度）は、8,556,226 円の営業損失を計上する赤字部門であった為、休業が得策ではないが、休業している事で営業損失は減少している。

3. 栽培事業

売上は2,729,724円(86.5%)であった。異常気象ともいえる猛暑と大雨などに悩まされることが多くなり、屋外の植栽計画については気候の大きな変動を視野に入れた対策が必要となっている。猛暑による従業員の体調管理及び作業効率低下も今後の課題である。

スタイレム灌定大阪㈱と進めている SDGs への取り組みであるリサイクル培地アグリラボについては、様々な植物の栽培試験を行ってきたが、前年度から利益を求める体制に舵を取り、商業利用を検討するためパルシェの得意分野であるハーブ栽培へ植え替えを順次行っている。現在はローズゼラニウムとハッカの二種類に絞り、エッセンシャルオイルの蒸留を行い、オリジナル石鹸を商品化した。次は除菌消臭ウイルス除去スプレーの生産へ検討を重ねている。

お花摘み体験については、昨年 6 月のラベンダー以降の摘み取り料金を値上げした。値上げが原因なのか、猛暑で屋外での行楽を避けられたのか、原因は把握できていないが全体的にお花摘みの利用者数が落ち込んでいる。しかしお花摘み体験はパルシェへの来館の動機付けとしての役割が大きい為、お花摘み利用者と呼び込めるよう、SNSでの発信を増やし、より美しく開花するよう栽培方法の工夫に取り組む。

《今期の摘み取り体験の実績》

○カレンデュラ【期間 4 月 1 日～5 月 14 日】10 本 200 円

売上21,761円（109名）前年比20.1%

- カモミール 【期間 4 月 27 日～5 月 29 日】 小袋 200 円
売上46,393円（231名）前年比232.0%
- ラベンダー 【期間 6 月 6 日～6 月 30 日】 20 本 200 円
売上 112,034 円（560 名）前年比 55.6%
- ひまわり 【期間 7 月 15 日～8 月 2 日】 5 本 200 円
売上43,499円（217人）前年比71.0%
- 千日紅 【期間 9 月 4 日～10 月 6 日】 20 本 200 円
売上 24,283 円（121 名）前年比 50.3%
- コスモス・メキシカンセージ【期間 10 月 23 日～11 月 10 日】 30 本 200 円
売上 63,803 円（319 名）前年比 101.5%
- カレンデュラ（翌年）【期間 3 月 29 日～3 月 31 日】 10 本 200 円
売上 1,000 円（5 名）前年比 9.6%

4. ファーストフード事業

売上は13,103,877円（96.4%）であった。カフェに改装して9年が経ち、マンネリ化が課題であり、既存メニューの改良と新メニュー開発に試行錯誤を重ねている。和食洋食共にレストランを休業していることから、パルシェ施設内唯一の食事場所という事もありハンバーガーを中心に売り上げアップに取り組んでいる。近隣で新規オープンしているC a f eのハンバーガー、スイーツメニューとの競争に負けない商品開発と広告宣伝が必要であり、スコーンやバスクチーズケーキ、冬限定でクラムチャウダーを販売しているが思うように売上に繋がっていない。

5. パルシェマルシェ事業

契約農家の高齢化もあり、生産力の低下、品揃えの不足が大きな問題である。定番商品の玉ねぎでも、需要に対して入荷量が足りていない状況があったり、出荷商品が同じ野菜に偏る事もある。他店に比べ品質が劣る点も大きな課題であり、品揃え豊富な農家さんとの契約を模索している。

6. 特産開発事業

特産開発事業は、パルシェオリジナルの商品開発を主とした事業で、売上は3,255,483円（103.0%）であった。今年度からの新商品のラベンダー巾着袋をはじめ、おやすみハーブ、ハーバルピロー等のハーブ詰め商品が好調で、ハーブ詰め並びにオリジナルエッセンシャルオイルS U U関連の出荷は、前年を超えており、オリジナル商品への需要が高いことを再認識している。令和6年7月から販売を始めた新商品の「S u u H E R B A L L A B」は、230本を出荷した。この商品はエッセンシャルオイルS u uの抽出時の副産物として得られるフローラルウォーターを50%配合し、残り50%も植物由来成分という商品で、除菌・消臭・ウイルス除去ができるスプレー商品で、空間や衣

類、トイレなどに使用できエビデンスもしっかりあるものである。フローラルウォーターはこれまでは大部分を利用できずに捨てていた為、有効利用できたことも価値のあることと言える。ラベンダー、ローズゼラニウム、淡路島なるとオレンジの3種類がある。

7. 加工（体験）事業

売上は46,462,588円（112.5%）、売上の前年比112.5%に比べ売上総利益額は前年比106.7%であり、材料費の高騰により原価率が上がっている事を示す数値となっている。

体験メニュー毎に比較すると、前年比30%以上伸びているメニューがあれば、逆に30%以上落ち込んでいるメニューもあり、料金改定も含めメニューの見直しが必要と考え、「ポプリ作り(1,200円)」と「淡路島線香作り職人体験(3,000円)」を新しく体験メニューに加えた。ポプリ作りは既存の体験メニューの中で一番短い時間(約30分)で作れることから、パルシェでの滞在時間をあまりとれないお客様の利用を獲得できるようになった。淡路島線香作り職人体験は、体験に使用する線香押し出し機を洲本実業高校の生徒さんに製作していただいた事から新聞、テレビ等のメディアに多数取り上げていただいている。

8. 温泉事業

入浴者数は91,446名（宿泊客2,484名を含む・100.3%）、売上は39,165,060円（102.8%）であった。年間の会員様(118名)をはじめ、常連様の高齢化が進んでいる。高齢化、体調面、運転免許を返納したので交通手段が無い等の理由で来館されなくなったり、料金設定を理由に他の温浴施設へ行っているという声を聞くことが多くなっている。逆に、周辺環境の変化によるとみられる、若年層の利用者が増えているように感じており。若者をターゲットとした、クーリッシュの風呂をはじめ、しょうぶ湯、ラベンダーの湯、アジサイの湯等季節感と話題性のあるイベントを行い、8月8日には、香りの湯開場30周年の式典を開催した。

施設の老朽化と、重油価格の高止まり等経費の高騰が収支を大きく圧迫している。老朽化については、ポンプ、ろ過機、制御盤、配管等、業者から更新を進められているものが多いが、先送りになっている箇所が多く、浴室等お客様に見える部分については「恥ずかしくないのか？」とお客様からお叱りを受ける状況にある。修繕については、市で予算を取っていただき、令和7年度から計画的な修繕を進めていくとの話をいただいている。

9. 宿泊事業

宿泊者数2,484名（81.8%）売上は16,564,691円（86.4%）であった。

宿泊施設も温泉同様老朽化が進んでおり、エレベーターのような安全面に心配がある箇所にも不具合が出ている。

食事部門の休業に伴い、食事無しの「素泊まり」での宿泊受け入れをしている。ご宿

泊のお客様は、阪神間からの方が圧倒的に多いが、関東、東海方面からの方も徐々に増えており、食事が用意できない、近隣に宿泊施設が増えている等、マイナス要素が多い中ではあるが、週末は満室になる日が多く、淡路島が注目されていることがわかる。

昨秋にフロント業務を兼務していた管理職が2名退職し、欠員の補充が急務である。

10. 香りの公園

公園管理並びに香りの公園を愛でる会事務局の運営を行っている。これまでの流れに加え、目新しい部分を作ろうと試行錯誤しているが、管理面積も広く、パルシェからの作業応援人件費及び外部委託費等が収支を圧迫しており、令和6年度から香りの公園の指定管理料を改定していただいたが、まだまだ賄えない作業量になっている。

11. イベント、広報活動

主なイベント、広報活動は以下の通りです。

・四季折々のお花摘み体験

カレンデュラ・カモミール・ラベンダー・ひまわり・千日紅・コスモス

・温泉で四季折々の変わり湯を実施

・ラベンダーフェア(6月)

・海水浴場へ看板を設置

・香りの湯30周年式典を開催(8月)

・雑誌・ネット等への掲載継続

じゃらん・るるぶ・まっぷる・淡路島ウォーカー・まるはり・関西ウォーカー等

・あわじ旅すごろくのスタンプ押印施設・賞品提供

(すごろく賞で、ハーバリウムキット5名様分を提供)

・ぶらっと淡路島への掲載(通年)ならびに、クーポンにも参加

・島内観光施設・宿泊施設等へのパンフレット配布

・淡路SAにてパンフレット配布 月に1、2回(土・日・祝のみ)

・SNS等での情報発信

・じゃらん遊びネット、アソビュー・ウラカタ：加工体験のネット予約

・いこーよ関西 手作り体験を中心にイベント情報をおでかけ情報サイトに掲載

・ふるさと納税雑誌への掲載

・広報淡路への掲載(なるほど・ザ・あわじ4月号へのプレゼント提供)

・淡路市商工会の共同チラシ掲載

・HPのリニューアル

・淡路市花卉切花品評会の開催(8/3・4)

・食のリレーイベント10/20(淡路島産お米のポン菓子振舞い)

(淡路市秘書広報課、神戸新聞、読売新聞の取材を受ける。)

・テレビ、ラジオ番組への出演(NHK、サンテレビ、KBS京都、四国放送など)

第 1 3 期

決 算 報 告 書

令和 6年 4月 1日から

令和 7年 3月 31日まで

◁

株 式 会 社 淡 路 島 パ ル シ ェ
(法人番号：4140001088843)

貸借対照表

代表者 石井 廣志

令和 7年 3月31日現在

(単位: 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
I 流 動 資 産 (	52,773,947)	I 流 動 負 債 (	21,656,327)
現金及び預金	25,510,596	現金	8,664,026
売掛金	5,823,927	掛払未払金	10,501,990
クレジット・クーポン	1,980,848	未払法人税等	185,000
棚卸資産	16,113,093	未払消費税等	1,898,900
前払費用	413,310	前払金	351,000
前払入金	2,792,438	預り金	11,138
未収金	133,328	預り金	14,273
未収金	2,122	未収金	30,000
未収金	29,054		
未収金	15,231		
未収金	40,000		
貸倒引当金	△		
II 固 定 資 産 (	8,259,443)	II 固 定 負 債 (	0)
有形固定資産	7,949,443)		
建物	4,912,521		
構築物	1,410,754		
機械及び装置	1,359,602		
工具、器具及び備品	266,566		
無形固定資産 (	0)	負債の部合計	21,656,327
投資その他の資産 (	310,000)	(純 資 産 の 部)	
出資	10,000	I 株 主 資 本 (	39,377,063)
差入保証金	300,000	1. 資 本 金	100,000,000
		2. 資 本 剰 余 金 (	0)
		3. 利 益 剰 余 金 (△	60,622,937)
		(1) そ の 他 利 益 剰 余 金 (△	60,622,937)
		繰越利益剰余金 △	60,622,937
III 繰 延 資 産 (	0)	II 評 価 ・ 換 算 差 額 等 (	0)
		III 新 株 予 約 権 (	0)
資 産 の 部 合 計	61,033,390	純 資 産 の 部 合 計	39,377,063
		負債・純資産の部合計	61,033,390

(単位：円)

科 目					金 額			
I	売商 飲宿 栽培 売上	品食 泊・温 ・加工 ・値	上売 売上 売上 売上	高 高 高 高 高	46,826,520 13,161,129 57,411,705 61,216,964	△	178,616,318 2,027,718	176,588,600
II	売期 商材 合期 売	上 首品 料末 上	原 棚仕 仕棚 総	卸 卸入 入卸 利	価 高 高 高 計 高 益		14,006,440 46,809,796 60,816,236 14,729,954	46,086,282 130,502,318
III	販 販 管	売 費 業	及 及 業	び び 損	一 般 管 理 費 失		149,923,537	149,923,537 19,421,219
IV	営 受 受 維	業 取 取	外 配 収	収 利 当	益 息 金 入		13,499 280 16,842,125	16,855,904
V	営 雑	業 外 損	費 用 失				2,583	2,583
経 常 損 失								2,567,898
VI	特 貸 倒	別 引 当	利 金 戻	益 入 額			10,000	10,000
VII	特 特	別 別	損 損	失 失			0	0
税 引 前 当 期 純 損 失 法人税、住民税及び事業税 当 期 純 損 失							185,000	2,557,898 185,000 2,742,898

販売費及び一般管理費の計算内訳

令和 6年 4月 1日から

令和 7年 3月31日まで

(単位: 円)

科 目	金 額
給 与 手 当	21,702,884
雑 給	48,750,080
旅 費 交 通	105,118
広 告 宣 伝	1,379,424
発 送 配 達	183,670
支 払 手 数	4,668,356
報 酬 料 金	929,091
退 職 給 付 費 用	227,448
役 員 報 酬	720,000
法 定 福 生 利	7,550,590
厚 償 却	1,293,588
減 価 代 家	1,385,629
地 代	266,719
修 繕 消 耗 品	4,418,038
事 務 用 消 耗 品	399,946
通 信 交 通	671,684
水 道 光 熱	20,257,021
租 税 公	225,038
寄 付 金	13,800
接 待 交 際	352,608
保 険	394,580
備 品 消 耗 品	6,573,865
燃 料 費	15,354,956
賃 借 料	1,456,687
委 託 費	10,024,747
諸 会 費	495,281
会 議	32,713
雑 費	89,976
合 計	149,923,537

棚 卸 資 産 の 計 算 内 訳

令和 7年 3月31日現在

(単位: 円)

科 目	金 額
商 品	5,994,949
原 材 料	8,735,005
貯 蔵 品	1,383,139
合 計	16,113,093

株主資本等変動計算書

令和 6年 4月 1日から

令和 7年 3月31日まで

(単位：円)

I	株	主	資	本		
1.	資	本	金			
			当期首残高			100,000,000
			当期変動額			0
			当期末残高			100,000,000
2.	利	益	剰	余	金	
(1)	そ	の	他	利	益	剰
	繰	越	利	益	剰	余
			金			
			当期首残高			-57,880,039
			当期変動額			
			当期純損失			
			当期末残高	-2,742,898	-2,742,898	-60,622,937
	そ	の	他	利	益	剰
			余	金	合	計
			当期首残高			-57,880,039
			当期変動額			
			当期純損失			
			当期末残高	-2,742,898	-2,742,898	-60,622,937
	株	主	資	本	合	計
			当期首残高			42,119,961
			当期変動額			
			当期純損失			
			当期末残高	-2,742,898	-2,742,898	39,377,063
II	評	価	・	換	算	差
			額	等		
			当期首残高			0
			当期変動額			0
			当期末残高			0
III	新	株	予	約	権	
			当期首残高			0
			当期変動額			0
			当期末残高			0
	純	資	産	の	部	合
			計			
			当期首残高			42,119,961
			当期変動額			
			当期純損失			
			当期末残高	-2,742,898	-2,742,898	39,377,063

個 別 注 記 表

令和 6年 4月 1日から

令和 7年 3月31日まで

I. この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

II. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 其他有価証券

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法を採用しております。

3. 固定資産の減価償却方法

(1) 有形固定資産

定率法又は旧定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については旧定額法、平成19年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については定額法、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、法人税法に規定する法定繰入率により計算した回収不能見込額を計上しております。

5. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

III. 貸借対照表等に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額 17,605,635円

2. 取締役等に対する金銭債務 50,000円

IV. 株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式総数 2,000株

V. 一株当たり情報に関する注記

1. 一株当たり純資産額は、19,688.53円であります。

2. 一株当たり当期純損失は、1,371.44円であります。

以 上